

- 鷺森別院で初参式□1
- 仏教いろは問答□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- 教区・別院今年度予算□6
- 響流十方・行事予定□7
- つれもて聴こら□8



『紀伊国名所図会』に描かれた江戸時代後期の鷺御坊

2021年(令和3年)  
7月1日  
第128号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

# 阿弥陀さまと尊い縁結ぶ

お子さんが初めてお寺にお参りし、ご本尊の阿弥陀さまとご縁を結んでいただく「初参式」が5月22日、降誕会に合わせて2年ぶりに鷺森別院本堂で行われ、5人のお子さんが受式、保護者ら合わせ13人が参加した。

## 5人が鷺森別院で初参式



お母さんと一緒に仏さまに向かい焼香

受式したのは、衣笠陽音君(3)、嶋藤慧ちゃん(2)、道場陸君(5)、湯峯祥弥君(3)、横崎結子ちゃん(4)。

初参式は、廣澤敬典輪番が調声して礼讃文と讃仏偈をお勤めし、「初参式についての消息」を拝読。

廣澤輪番は、参加者に「今日は初めてご家族でお参りくださいました。仏さまは、いつでもどこでもどんなときでも私を見守ってくださいっています。このご縁を大切にしてください、今後折々、お寺にお参りして下さると話した

続いて森薫師(海南組教法寺衆徒)が法話。「人間の親は、常に子どもと一緒にいたいと思っても、子の悩みや苦しみを背負ってやりたいと思っても、かなわないときがございます。今、お子さまには、私たち一人ひとりを大切にな

参加者そろって本堂にお参り



くださいます。

「今日まで元気に育ったことへの感謝と、いつも見てくださっている仏さまにありがとうの気持ちでいっぱいです」と、喜びの声。

## 二尊会と降誕会勤まる



恒例の二尊会と降誕会が、2年ぶりに参拝者を受け入れて、鷺森別院本堂で勤められた。

5月13日から16日の二尊会(写真)では、各種団体の参拝奨励日が設けられ、4日間で約200人が参拝。5月22日の降誕会には教区内の門徒推進員らが参拝し、法縁を喜んだ。

若葉と純真の

仏教いろは問答

1

▽お寺の掲示板「お前も死ぬぞ」の言葉から



若葉 純真



若葉

高校1年生の若葉は、浄土真宗のお寺の若センセと純真との出会いによって仏教の「いろは」を学び始めます。しかし、いろはとは、初歩であると同時に核心でもあり、2人の「問答」は簡単には進みません。問答の行方やいかに、どうぞお付き合いください。

学校からの帰り道、いつもは気にも留めずに通り過ぎるはずのお寺の掲示板の文字がふと目に留まり、若葉は立ち止まった。そこには「おまえも死ぬぞ 釈尊」と書かれていたのだ。「こんにちは!」。お寺の境内にいたお坊さんから急に声を掛けられた。純真「掲示板を見てくれたのかな」

若葉「はい。少しびくびく通ってるんですけど、初めて立ち止っちゃいました」

若葉「この人の名前って、しゃくそん……」

純真「釈尊というのは、釈迦族の聖者という意味で、お釈さまのことです」

若葉「釈尊という人は、こんな言い方したんですか」

純真「こんな口調じゃなかったと思うけど、釈尊は、誰もが死に直面している存在なんだと気付かせることよってさ」

純真「お寺の前を通った人が少しでも自分の人生について考えるきっかけになればと思って、毎月掲示板の言葉を変えてるんだけど、これは『輝け!お寺の掲示板大賞2018』で大賞を受賞した言葉なんですよ」

若葉「誰でも必ずいつか死んじゃうってのは、頭では分かっていたんですけど、私にはまだまだ先のこと、関係ないことだと思っていました」

純真「そんな感想を頂けるとは有り難いことです」

若葉「誰でも必ずいつか死んでは分かってはいたんですけど、私にはまだまだ先のこと、関係ないことだと思っていました」



イラスト: いざりん

若葉「何となく分かる気がしますけど、家に帰ってよく考えてみます。今日はありがとうございました。また来てほしいですか」

(本紙・大須賀拓善+荻野龍裕)

# 新 祖蹟点描

## 30 六角堂④

前回、『石山寺縁起』には、本堂に参籠して夢告や夢想を授かるエピソードの描かれた場面が6つあると述べた。その一つに、「藤原道綱の母、夢想によつて夫婦のよりを戻す」というエピソードがあった。

藤原道綱の母(936?~995)とは、『蜻蛉日記』の作者として知られる平安時代中期の貴族の女性だが、彼女は、内縁の夫である藤原兼家の心が自分から離れたと感じて悲しみ、石山寺への参籠を思い立つ『縁起』のエピソードの

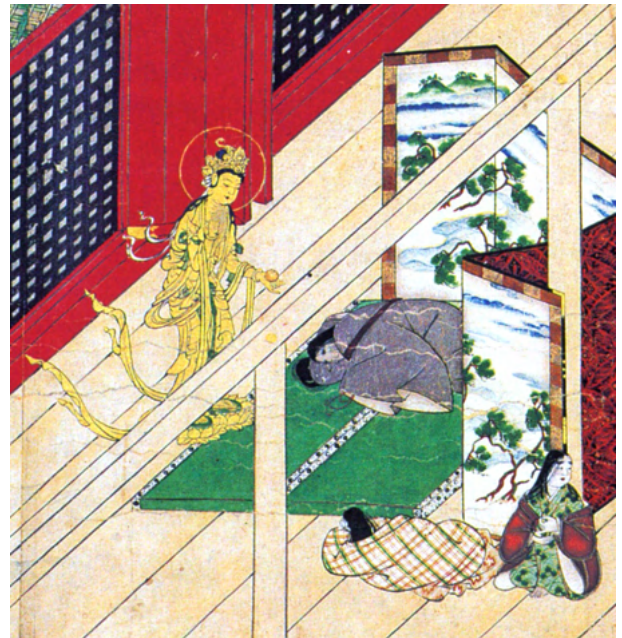
元となった『蜻蛉日記』の天禄元年(970)7月の条には、実際の参籠の様子と、自らの身の上を「仏に申すにも、涙に咽ぶばかり」などの心情が記されているが、これによつて参籠のおおよその流れが分かる。

午後5時ごろ石山寺に着いた彼女は、齋屋という齋戒沐浴と休憩のための建物でしばらく休んでから、夜湯で身を清めて本堂へ。朝4時ごろの勤行まで本堂に参籠し、齋屋へ戻る。そして、その日の夜再び

『蜻蛉日記』の作者が見た、僧が右膝に水を注ぐ夢の場面



本堂に参籠。  
本堂での勤行はおそろしく1



如意宝珠を授けようと女性の夢に観音菩薩が現れる

### 人々の苦悩に応える観音菩薩

日6回、晨朝(午前8時ごろ)、日中(正午ごろ)、日没(午後4時ごろ)、初夜(午後8時ごろ)、中夜(午前零時ごろ)、後夜(午前4時ごろ)に行われていたと思われる。参籠した

人々は、その都度お勤めに参加しながら、ご本尊の如意輪観音菩薩からお告げを授かるのを待ったのである。

『蜻蛉日記』の作者の場合、夜明け前にうとうととしたとき、僧が鉢子という酒をつぐための道具に入れた水を右膝に注ぎかけるといふ夢を見た(絵④)。

右膝を立てた姿勢は、右脚を立て膝にして座る姿で

造形されることの多い如意輪観音菩薩像を連想させるが、膝に水を注ぐとはどういう意味であろうか。

この場面も含め、観音菩薩の化身とおぼしき存在は、『縁起』の6つの場面の内4つで僧として現れ、1つは白装束の童子として現れている。これには、観音菩薩が人々の苦悩に応えて変現自在に33の姿を取ると、当時広く信じられていたことが背景にあった。

ただし観音菩薩がその姿

のまま現れている(絵⑤)のが、「藤原国能の妻、夢のなかで如意宝珠を授かる」というエピソードである。

このエピソードを『縁起』の詞書(現代語訳)で紹介しておきたい。「藤原国能の妻は、貧しく子にも恵まれず夫と別れることになり、悲しみのあまり、石山寺に7日間参籠した。日夜三千三百三十三度礼拝し、

命が絶えることも顧みず心を込めて祈請していたところ、ふとまごころんだ夢に、御帳の内から観音菩薩が現れて、『これは汝の子なり』と如意宝珠(意のままに願いをかなえる珠)を賜った、と見たところで目が覚めた。目覚めると、手には不思議な色の珠があった。家に帰ってこの珠を崇め拝んでいると、国能も帰ってきて、打って変わりが福になり、2年を経て男子も生まれた――。

如意宝珠を授けたのは、ご本尊の如意輪観音菩薩に違いない。「如意輪」とは、「如意宝珠」と「法輪」を表す。まさに如意宝珠のようにすべてが意のままになる境地にあって、その境地から法輪を転じて衆生を利益する菩薩さまなのである。

【参考文献】河東仁『日本の夢信仰』(玉川大学出版部)、名島潤慈『日本における夢研究の展望補遺』(IV)籠りの夢の問題(熊大教育実践研究第14号所収) (本紙編集部)

# 再開後2回目 多彩な内容

## 日高組連研

日高組(永原智行組長)が主催する第10期「日高組れんげん」の第9回研修会が6月5日、御坊市の日高別院で開かれた。

同組連研は、新型コロナウイルスの影響で1年2カ月余り休止していたが、4月10日の第8回から研修を再開。再開後2回目となったこの日は、田植えの時期と重なったこともあり、受講者26人のうち出席は4人。組長あいさつと開会のお勤めのこと、片桐浄映師(日高組円行寺住職)の指

### 終戦後の満州での悲話も材料に



講師の話題提起に耳を傾ける受講者(日高別院本堂)

導で、正信念仏偈と初重の念仏・和讃のお勤めを練習。菅原吉人師(日高組専福寺住職・日高別院副輪番・

御坊幼稚園園長)による「教学伝道」の講義は、「子どもの声が聞こえるお寺に! キッズサンガ」と題し、御坊幼稚園の取り組みについて。毎月16日の本堂参拝では、園児たちはきちんと正座してお参りし、仏さまの話をしっかりと聞いてくれています、と話した。

それによれば、満州にあった理春西本願寺の住職戸川賢乗さんの長男で、終戦当時8歳だった史朗さんは、略奪によって廃虚同然となった同寺に、20人余りの日本人と身を寄せ合い暮らしていた。

座では、「個人同士のけんかも国同士の戦争も結局同じでは」との意見が出た。まとめの講義で橋原師は、「お互いが『私は正しい』『私は悪くない』と言っていたら、必ず争いが起る。自らはこれ凡夫なり、お粗末な自分であると自覚していたら、争いは起こらない。これが念仏者の生き方ではないか」と、話した。

**訂正** 前号1面「日高組連研が10日再開予定」の記事中、「日高組の第10期連研は、2019年2月に第7回の研修を行ってから休止していたが」の傍線部分は、「2020年」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

## ビハラ和歌山が研修

### 「希死念慮や自死へのサポート」学ぶ



ビハラ和歌山(吉田敬子会長)の研修会が4月9

日に鷺森別院で開かれ、12人が参加。会員の中田三恵さん(伊那組教善寺住職)の講義「希死念慮や自死へのサポート」を聞いた(写真)。

けでなく、大切な物・財産・仕事・地位、また身体の一部や機能などの喪失によって起る深い悲しみのこと。それによつて、さまざま

## 青色青光

な身体的反応(めまい・吐き気・不眠・体力が入らないなど)や精神的反応(不安・孤独感・無力感・罪悪感など)が引き起こされるが、その反応が半年から1年以上続くと悪化してうつ病などになり、自死につながる場合もある。

### 本山で聖徳太子1400回忌法要



聖徳太子御影(御影堂左余間)に飾りされたきれいな御影

ご本山・西本願寺で4月13、14両日、聖徳太子(574〜622)の1400回忌法要が厳かに勤修され、宗祖親鸞聖人が「和国の教主」

と呼んで尊崇された太子の遺徳をしのんだ。13日は阿弥陀経作法第二種、14日は上宮太子作法が勤められた。

### 鷺森別院で得度講習会

6月26、27日の2日間、鷺森別院を会場に得度講習会が開催され、教区内から1人が参加。僧侶としての基礎知識を学び、得度式に向け気持ちを新たにしたい。



お褒姿の威儀の結び方教わる

### 過疎問題とお寺①

## 自然の魅力活用

楠原 晃紹 (過疎対応支援員)

一昨年6月から和歌山教区過疎対応支援員として活動されている楠原晃紹さん(日高組妙願寺住職)。本紙でも今年1月号と4月号にその活動の一端を紹介いただきましたが、今号から「過疎問題とお寺」と題して、連載開始。過疎問題に関係するご相談は教務所まで。

那智勝浦町に臨濟宗妙心寺派の大森寺(西山十海住職)という寺院があります。このお寺では、2年前から庫裏を開放して宿坊を始めました。「お寺ステイ」という事業です。

簡易宿泊所、いわゆる民泊は収益事業ですので、寺院規則の変更や所轄庁(県)、包括宗教法入(本山)への許認可の手続きや宿泊事業の届け出などで時間と労力がかかり、立ち上げまでに苦労されたといいました。

風呂・トイレ・洗面施設の整備などを借入金で賄うことで、老朽化していた庫裏を改修し、鳥小屋を座禅道場に改修。宿泊された方が、お寺や仏教に親しんでほしいとの思いから、座禅

## 「お寺ステイ」事業 オートキャンプ施設

那智勝浦町 臨濟宗大森寺の取り組み



境内に開設されたオートキャンプ場(大森寺ホームページから)

## 教区内の無住寺院に活用できないか

取り組まれています。昨年からの新型コロナウイルスの影響で、海外からの利用者客が激減したため、今年

は助成金を活用して、新たにキャンピングカーなどのために、車5台分の外部電源設備を整備して、テントエリアも新設されました。アウトドアブームに乗ってより多くの方々に利用してもらおうとの狙いです。住職のお話で特に参考になったのは次のことです。

大森寺の近くには、大森寺と合併したお寺があるそうです。合併したものの、本堂などの建物は檀家さんが維持されているそうですが、その境内地をオートキャンプ場にしてはどうか

というのです。それによつて、本堂などの維持費を賄うことができるのではないかとアイデアです。オートキャンプ場は、電気・水道・トイレ・シャワー室など、比較的小さな設備投資で始められる事業ではないかと思えます。

無住寺院ということで防犯対策が不十分な点も、オートキャンプ施設をつくることによつて人の出入りが増え、その不安が解消されるかもしれません。

教区内にも、風光明媚な山間地や海岸筋に無住寺院が点在しています。自然の魅力とタイアップして伽藍や境内地を有効活用できる方法として、今後一考の価値があるように思います。

# 2021(令和3)年度和歌山教区一般会計歳計予算

## 歳入の部

款	費目	予算額	説明
1	教区賦課金	33,433,890	教区賦課金
2	宗派交付金	11,080,000	宗派・各種団体交付金
3	願記手数料	1,200,000	願記手数料(教区分)
4	回金	0	
5	雑収入	1,286,110	行事参加費、預金利息等
6	繰越金	6,000,000	
合計		53,000,000	

※教区一般会計歳出の部の「人件費」「水道光熱費、維持管理費」は、鷲森別院一般会計歳入の部「回付金」「人件費負担金」へ回付されます。

## 歳出の部

2021(令和3)年4月1日  
～2022(令和4)年3月31日

款	費目	予算額	説明
1	実践運動推進費	9,950,000	実践運動関連並びに組助成費等
2	会議費	800,000	教区会、組長会、その他会議
3	宗会選挙事務費	50,000	選管委員会開催
4	教務所費	34,000,000	人件費※、事務費、負担金
5	維持費	1,700,000	水道光熱費※、維持管理費※
6	回金	500,000	各種特別会計へ回付
7	予備費	6,000,000	
合計		53,000,000	

# 2021(令和3)年度 本願寺鷲森別院一般会計歳計予算

## 歳入の部

2021(令和3)年4月1日  
～2022(令和4)年3月31日

款	費目	予算額	説明
1	懇志	6,550,000	各種懇志
2	回付金	3,080,000	特別会計・教区会計※より回付
3	各種交付金	200,000	教化助成費
4	維持費	4,390,000	護持費、参与会費
5	負担金	33,570,000	人件費負担金※(教区・幼稚園)
6	雑収入	810,000	預金利息等
7	前年度繰越金	5,000,000	
合計		53,600,000	

## 歳出の部

款	費目	予算額	説明
1	法務費	1,910,000	荘厳費、法要費
2	教化費	1,130,000	常例布教、各種教化費
3	事務費	38,950,000	人件費、水光熱費等
4	会議費	100,000	責役・総代会
5	維持費	4,270,000	営繕費、保険料
6	積立金	2,000,000	営繕積立金、退職積立金
7	回付金	10,000	
8	予備費	5,230,000	
合計		53,600,000	

### 寺族女性会委員改選

和歌山教区寺族女性会では、任期満了に伴う改選で下記の委員が選出されました。任期は2021(令和3)年4月1日から2023(令和5)年3月31日までの2年間。

▽会長・加藤諭絵(和歌山西組万福寺)▽副会長・辻本典子(和歌山西組西念寺)、平林園子(有田南組福藏寺)▽会計・武内多江子(和歌山北組善勝寺)▽

### 寺族青年連盟委員改選

和歌山教区寺族青年連盟では、任期満了に伴う改選で下記の委員が選出されました。任期は2021(令和3)年4月1日から2023(令和5)年3月31日までの2年間。

監査・麻生晶子(海草組法照寺)、北山美和(日高組光専寺)▽委員・下間朋子(和歌山東組信榮寺)、齋藤友紀(加茂組青蓮寺)、藤澤勝美(海南組光澤寺)、中田三恵(伊那組教善寺)、三枝百代(有賀組日照寺)、菅原和代(有田北組教蓮寺)、津本千絵(御坊組天性寺)、山本友紀(紀南組善照寺)※敬称略

▽委員長・荻野龍裕(海南組浄國寺)▽副委員長・辻本真一朗(和歌山西組西念寺)、伊勢川貢平(伊那組玉川寺)▽会計・横出顕悟(和歌山北組教願寺)▽監査・杉山龍法(和歌山北組永正寺)、宇多真海(伊那組光明寺)▽委員・和田慈

仁(和歌山組眞光寺)、西岡顯道(和歌山東組蓮光寺)、小川眞史(和歌山西組松専寺)、廣田聡美(和歌山西組安榮寺)、山本龍法(和歌山北組浄永寺)、谷口寿博(加茂組安養寺)、岩清水成海(海草組西方寺)、雑賀 顕(有田南組善照寺)、岩本真憲(有田北組西明寺)、桒崎教信(日高組覚性寺)、川越顕之(御坊組正覚寺)、佐々木実結(紀南組専光寺)※敬称略(有賀組未選出)

# 響流十方

## 7〜9月の催し

### 本山

7月20〜22日 朝の法座  
(大谷本願)

8月14〜15日 孟蘭盆会

8月15日 戦没者追悼法要

9月18日 千鳥ヶ淵全戦没

者追悼法要(国立千鳥ヶ淵

戦没者墓苑からネット中継)

9月20〜26日 秋季彼岸会  
※本山の行事については、  
ホームページ等で最新情  
報をご確認ください。

### 和歌山教区

7月1日 研修部会(鷺森  
別院)

7月6日 仏教婦人会連盟

清掃奉仕(鷺森別院)

7月9日 平和を希う念仏

## 平和を希う念仏者の集い

### —全戦没者追悼法要—

とき 7月9日(金)

ところ 鷺森別院本堂

〈追悼法要〉 13:30〜14:10

〈記念講演〉 14:20〜15:20

講師 高橋克伸さん

(和歌山市立博物館元学芸員)

### 「和歌山市大空襲の証言について」 〜声の記録から〜

各組3〜5人の参拝者となるよう、ご協力を  
お願い申し上げます。

### 仏教婦人会連盟委員改選

和歌山教区仏教婦人会連盟では、任期満了に伴う改選で下記の委員が選出された。任期は2021(令和3)年4月1日から202

者の集い(鷺森別院)

7月13日 常備会、寺院振

興対策委員会(鷺森別院)

7月14日 寺族女性会委員

会(鷺森別院)

7月20日 社会部会(鷺森

別院)

8月31日 ビハークサロン

(鷺森別院)

8月上旬 臨時教区会(鷺

森別院)

9月8日 布教団連続法座

「仏説無量寿経に聞く」

(鷺森別院)

9月11日 ビハーク和歌山

公開講座(鷺森別院)

9月13日 公聴会(鷺森別

院)

### 教区内各組

#### 和歌山組

7月17日 組内会(鷺森別

4(令和6)年3月31日ま  
での3年間。

▽委員長・中島淳子(海

南組光明寺)▽評議員、副

委員長・玉置明美(有田北

組浄念寺)▽副委員長・大

西悦子(和歌山組田明寺)

院)

#### 和歌山東組

9月未定 組内会(未定)

#### 海草組

7月3日 総代会委員会

(報徳寺)

#### 日高組

8月7日 第10期門徒推進員

養成連続研修会⑨(日高別院)

### 教師

#### 3月

清水光頭(御坊組専福寺)

#### 4月

太田正信(和歌山東組玄通寺)

林義景(有田南組教専寺)

### 敬弔

雑賀久子(有田南組善照寺  
前坊守・衆徒) 3月24日

ご生前のご活躍で尽力に  
感謝申しあげ、謹んで敬弔  
の意を表します。

の法話を聴聞する。

▽会計・中島祐子(和歌山  
西組寛円寺)、石川多枝子  
(有田南組安楽寺)▽監査・

前田智子(加茂組安養寺)、

玉置文世(御坊組源行寺)

▽委員・林悦子(和歌山東

組信楽寺)、松本頼子(和

歌山北組浄源寺)、中西周

代(海草組安養寺)、田中

絹代(伊那組大光寺)、奥

久江(有賀組願正寺)、松

本陽子(日高組即生寺)、

栗田直恵(紀南組妙道寺)

※敬称略

### 鷺森別院の催し

#### 孟蘭盆会

8月15、16日、午後1時

30分からお勤め。その後、

午後3時ごろまで永原智行

師(日高郡田良町・教専寺)

の法話を聴聞する。

#### 常例法座

7月15、16日、尾崎道裕

師(吉野郡下市町・實原

寺)。9月15、16日、多田

大順師(橿原市今井町・順

明寺)。いずれも午後1時

30分からお勤め、その後、

午後3時まで法話を聴聞。

(本願寺鷺森別院 和歌山

市鷺森1番地 電話073

42214677)

### 日高別院の催し

#### 秋季彼岸会

9月25日、午後1時から

仏説阿弥陀経をお勤め。そ

の後、午後2時15分まで廣

澤敬典輪番(日高別院)の

法話を聴聞する。

(本願寺日高別院 御坊市

御坊100 電話0738

12210518)

### 鷺森テレホン法話

おにさん  
(073) 422-0243

こころの電話

(御坊組専福寺)  
(0738) 44-0874

# つれもて 聴こら

「仏身円満にして背相なし 十方より来れる人みな面に対ふ」(註釈版聖典七祖篇751六)

このお言葉は、親鸞聖人が七高僧の一人と仰がれた善導大師が『般舟讚』のなかで仏さま方のお徳を讃嘆しておられる一節です。 仏さまのお姿には功德が満ち満ち、誰に対しても背を見せることなく、あらゆる

ることを表しています。

背を見せるとは、「背を向ける。相手の意志に従わない。同意・協力しない。無関心な、冷淡な態度を取

## 安部恵証

る」という意味を持っています。

会話をしているとき、もし相手に背を向けられたと

## ひとりも漏らさぬお救い



よりのこのかたつねに没し、つねに流転して、出離の縁あることなしと信ず」(註釈版聖典218六)と、自身を捉えておられます。

や和顔愛語の生活を送るところか、自分の心の赴くまま欲望に走り、他人には目もくれない、そんないのちを繰り返してきたのです。 それはまさに、私が仏さまに対して背を見せ続けてきたということに他なりません。

私は、はるかな過去から今に至るまで、ずっと迷いの世界をさまよいつけてきたのです。その間、何度となく仏さまと出遇い、その教えを聞かせていただいたのかもしれない。

しかし、阿弥陀さまは、そんな私にも決して背を向けることなく、常に向き合いつけてくださっています。過去の仏さま方のはたらきから漏れてしまい、仏とすることができなかった私を、どうしたら救うことができるかを考え抜いてくださっているのです。 そして、南無阿弥陀仏の声の仏となり、いついかなるときでも決して私から離れることなく、はたらき続けてくださっています。

# 私に向き合い続けてくださる仏さま

るところから来る人ひとに、すべて正面から向き合われるということがです。

それは、いかなる者に対しても、分け隔てなく救いのはたらきを差し伸べられ

したら、私の話を本当に聞いてくれているのだろうか、何か私に不満があるのだろうかと不安になり、そこから不信感を抱くことになり

ます。

反対に、相手が話をしているとき、興味がないとき、相手に腹を立てているときは、背を向けてしまう私

います。それは相手を受け入れられず拒否する心の表

れであり、ともかく「背を見せる」という表現は良い意味では使われません。

そして、仏さまにも背を向けているのが、この私です。宗祖親鸞聖人は「曠劫

とは、その仏さまとの縁によって迷いの世界を離れ、仏と成ることができなかつたということでしょう。

仏さまの話を聞きながら、も、煩惱を抑え、少欲知足

感謝のお念仏を申していくことが、浄土真宗の門徒のあるべき姿だと思うのです。

(三次市君田町・善照寺) 鷲森別院二尊会法要の法話から